

## 2021年7月の金融経済概況のポイント

### ■景気の基調判断

- 今月の基調判断は、「新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあり、横這い圏内の動きとなっている」と、前回と同じです。基調判断としては、2月以降、横這いが続いています。
- 需要項目ごとの判断も、変更はありません。個人消費は、低い水準となっており、横這い圏内の動きとなっているほか、観光は、引き続き厳しい状況にあり、弱い動きとなっています。また、公共投資は、高水準となっており、住宅投資は、緩やかに持ち直しています。
- 雇用や金融面についても、前回と同じ判断です。労働需給は、弱めの動きがみられており、金融面は、預金、貸出とも前年より増加しています。

### ■個人消費の動向

- 大型店売上高は、6月、前年を下回りました。巣ごもり需要を背景に日用品、食料品は、底堅い動きを維持していますが、衣料品は低調が続いています。大規模店舗では、前月に続き、緊急事態宣言に伴う専門店の休業等を受けて集客力が低下した影響がみられました。また、家電販売は、特別給付金の支給による押し上げ効果があった昨年には及びませんが、エアコンやテレビ、冷蔵庫等を中心に、全体として堅調な動きとなっています。
- 6月の新車登録台数は、軽自動車は前年を下回ったものの、除く軽、合計は、前年を上回りました。除く軽、合計の前年比プラスは、感染症による客足の減少等により、前年が低めの水準に止まったためです。最近は、半導体不足によるメーカーからの完成車供給の遅れが広くみられ、これが新車登録に影響を及ぼしています。自動車ディーラーでは、来店客数が緊急事態宣言の解除後も概ね横這いで推移する中で、相応に受注を獲得できて

おり、納車までの期間の長期化から受注残が積み上がっている状況です。

## ■観光の動向

- 道北4空港（旭川、稚内、女満別、紋別）の旅客数をみると、6月は、全ての空港で前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。4か月連続の前年比プラスです。もっとも、これは、前月同様、前年が感染症の影響で大幅減となったためであり、前々年との比較では、引き続き4分の1程度に止まっています。この間、旭川空港の国際線の就航便数は、6月は、16か月連続で定期便、国際チャーター便ともにゼロとなりました。
- ホテル・旅館宿泊客数は、6月、前年を上回りました。これも前年が感染症の影響で大幅減となったためであり、前々年の水準を大きく下回っています。新規予約が低調に推移し、休業する先もみられるなど、引き続き、弱い動きとなっています。旭川市内のホテル客室稼働率は、6月、前年を上回りました。ただ、こちらも前年が感染症の影響で大きく落ち込んだためであり、前々年の水準を大きく下回っています。
- 各地観光施設の入込みは、6月、ウトロ温泉、利尻・礼文フェリーが前年を上回ったものの、ウェイトの大きい旭山動物園、層雲峡地区、博物館網走監獄が前年を下回ったことから、合計でも前年を下回りました。前年を上回った地域・施設もプラス幅は小幅であり、全ての地域・施設が前々年の水準を大きく下回っています。

## ■公共投資の動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局における公共工事請負金額は、6月、宗谷が前年を下回り、オホーツクが前年を幾分下回ったものの、上川が前年を大きく上回ったことから、全体でも前年を幾分上回りました。2021年4月以降の累計では、上川が前年を上回ったものの、宗谷、オ

ホーツクが前年を下回ったことから、全体でも前年を下回っています。

## ■住宅着工

- 新設住宅着工戸数は、5月、持家が前年を下回ったものの、分譲が前年を大きく上回ったほか、貸家も前年を上回ったことから、全体でも前年を上回りました。基調としては、持家が一進一退の動きとなっている一方、貸家は増加しています。分譲は概ね横這い圏内の動きとなっています。

## ■雇用

- 雇用状況は、弱めの動きがみられています。有効求人倍率は、5月、旭川、稚内、北見、網走の全てで前年を上回りました。旭川が1倍を下回ったものの、稚内、北見、網走が1倍を上回ったことから、全体では2か月振りの1倍超えとなりました。新規求人数は、5月、旭川が前年を下回ったものの、稚内、北見、網走が前年を上回ったことから、4つの職業安定所を合計した新規求人数でも、前年を上回りました。もっとも、これは、前年の新規求人数がコロナ禍で落ち込んだことが影響しています。

## ■金融動向

- 上川、宗谷、オホーツクの3総合振興局管下における金融機関貸出残高は、6月、前年を上回りました。6月まで28か月連続で前年を上回っています。

## ■今後のポイント

- 今後、道北地域の経済を見ていく上では、引き続き、感染症の動向とその影響がポイントになると考えられます。当面は、ワクチンの普及が進む中で、緩やかな持ち直し基調が明確になっていくとみられますが、極めて不確実性が高く、下振れリスクが大きい点には注意が必要です。具

体的には、①強い下押し圧力を受けている観光、消費の動向、②原材料価格の上昇がみられる中での価格転嫁の動きやそれが企業収益に与える影響、③公共工事について、人手不足の問題を抱える当地建設業者の受注への影響、といった面に注意を払いたいと思います。

以 上